

令和4年度地域包括支援センター事業中間評価（令和4年11月末時点）

印西市印西南部地域包括支援センター

事業ごとの評価	
総合相談支援業務	相談件数はやや増加傾向。支援が必要な方はもちろん、今後のこととしてまだ支援が必要ではない段階での来所も増えており、周知の広がりや自分ごととしての意識の現れとして良い傾向と感じている。
権利擁護業務	虐待相談の通報は「虐待のようになりそう」の段階で入ることが増えてきている。結果、虐待が発生する前にチームで改善の状況へ向かうよう支援を始められ、虐待防止となっていると言える。 消費者被害については、消費生活センターと支援を行った実績2事例。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	介護支援専門員との良好な連携が取れるよう必要な情報の発信や日頃の関り、声掛けなどを重要と考え取り組んできた。結果、複数の介護支援専門員と共に支援をする機会も増えていることや、資源の有無や地域の見守りなどについての問い合わせも増えてきており、インフォーマルと繋がっているケースも見られている。 市と連携し介護支援専門員に対する必要な研修の企画・実施した。
地域ケア会議推進事業	圏域地域ケア会議は計画通り2回実施。回数を重ねるごと、多職種顔の見える関係が更に構築できている実感がある。今年度は「支え手となる家族の支え不足」に着目した会議を行っている。会議で検討されたいくつかの具体策に取り掛かっている段階である。
在宅医療・介護連携推進事業	「在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議」「在宅医療・介護市民講演会」「多職種連携研修会」への実施協力や出席。 救急キットの活用促進のため、地域において約100人以上に対して周知し、約3割以上の新規申請を受けつけその際もしもの時の備えについて個別で話を加えるなど丁寧に行った。 「医療と介護のサポートガイド」の活用も兼ね、住民対象に出前講座を行い、良い反応が確認されてい

	るため引き続き行っていく。
認知症施策推進事業	<p>認知症初期集中支援チームの対応実績は「〇」。一方で、認知症疾患医療センターの相談窓口の活用を行っており、そこから解決に進んだ実績も出てきている。</p> <p>認知症カフェは計画通り実施。認知症当事者と介護者、介護経験者の参加率が高く、非常にお互いを認め合っている雰囲気生まれている。</p> <p>認知症に関する出前講座を実施。初めて中学校に対しての認知症サポーター養成講座を実施した。</p>
生活支援体制整備事業	<p>地域住民が地域のことを考える「住民座談会」を計画的に開催。新たに関心があり参加される住民もあり、「地域のために何かできないか」と動こうとしている方も少しずつ見られ始めている。</p>
令和4年度事業中間評価（総括）	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談対応の中の介護保険申請においては、必要性の点から判断が難しいことも多くあり対応に苦慮することもある。まずは老いていくことに関してどんな不安やどんな希望があるのかなど丁寧に聞き取ることが重要と考え対応している。 ・働いている介護者からの時間外の問い合わせもあり、出来るだけ対応できるように調整できている。メールなどでの対応も積極的には行っているが、デメリットもあり、電話や、対面をうまく使い分けるようにしている。 ・認知症カフェでのこれまでの積み上げにより良い評価として、当事者も一緒に手伝いをしてくださる、関心のある地域の方も含まれる等、認知症への理解が広まっていること、カフェの参加者のうち男性の介護者は、積極的に輪になって話をすることや、カフェ以外の場にも誘い合い、包括支援センターに定期的に来所して話をされるなど、介護者の孤立化防止、地域での支えが定着している部分も生まれてきている。 ・良好な連携として、関係者はもちろん、地域の方、活動者、民生委員、管理事務所関係者など、相手の状況を理解しながら継続的に関わり、必要な情報提供やより改善できるような提案、連携を行っている。これらの数年の取り組みの効果もあり、例として圏域の地域ケア会議において、出席者から他市の同様な会議と比較して高評価の感想を複数聞くことが出来た。 	